

【令和7年度 作品講評】

◎紹介文部門

賞	入賞者氏名 「作品の題名」 『書名』	講 評
金 賞	奥 美琴 「辞書・言葉の魅力」 『舟を編む』	初めに作品の印象的な場面を取り上げ、読み手の興味を喚起し、次に主人公や作品について紹介して、「言葉の持つ力を実感させられた」としています。続いて、辞書編集の大変さや、辞書を引く面白さを感じた自身の体験に触れています。最後におすすめポイントを「言葉について考えるきっかけをくれる」と示し、「辞書と言葉の魅力」についてまとめるという展開の工夫がなされています。辞書編集の重さを感じさせ、言葉が持つ力、また、作中の人間関係を紹介文として分かりやすく表現している点もよいです。
銀 賞	坂下 葵 「ルーマニア語について、 あなたの知っていることを聞かせてください。」 『千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、 一度も海外に行ったことがないまま ルーマニア語の小説家になった話』	「ルーマニア語」という未知のものに対する興味がドラマチックに語られ、興味を引く内容です。難病、鬱病を患う著者の自室が冒険の舞台であり、そこからルーマニアの文壇デビューを狙うという、この話の展開のポイントを紹介文として端的にまとめている点が素晴らしいです。後半では、この本に描かれる著者の姿に対する感動が描かれ、最後には「もがきながらも必死に生きる著者の息吹を感じてほしい」と明確に描く紹介文全体の展開の仕方が効果的でした。
銅 賞	香田 明彦 「今、私は生きている」 『今日われ生きてあり』	「知覧特攻平和会館」を訪問されたという自身の過去の思い出から書き始め、この本の内容を踏まえ、「戦時下であり、愛する人や家族を残して旅立つ若者の純粋な思いに心が震える」と、自らの感想を述べるといった構成が巧みで読みやすいです。地元、岐阜県に関する内容にも触れ、戦後80年を迎え、「生きる」ということ、また、「戦争」というものについて改めて考える必要を喚起する内容でした。次の世代にも伝えたい内容です。
フレッシュ賞	嶋口 かりん 「トンネルの先に」 『雪国』	小説『雪国』の有名な冒頭文から書き始め、小学校時代の自らの読書体験、おすすめのポイント、そして、読後の気持ちという展開が読みやすいです。また、おすすめの理由が、『雪国』が表現している洗練された美、心理描写を踏まえ、巧みで印象的な言葉に出会ってほしいと展開され、紹介文として読書意欲を喚起させるものです。
フレッシュ賞	松森 紗世 「糸を手繰る」 『真夜中のマリオネット』	「深紅の瞳に吸い寄せられるように」表紙に引き付けられたと述べている冒頭部分に意外さがあり、独自の感性を感じました。次にあらすじを説明し、その後、この作品の魅力を展開のスピード感と文章表現の巧みさの2点から明示しています。また、ミステリー作品としてのどんでん返し存在を示し、「マリオネットのように操られる読書体験」と、本書の題名を踏まえておすすめポイントを述べている展開も効果的でした。

◎POP部門

賞	入賞者氏名 「キャッチコピー」 『書名』	講 評
ゴールド POP賞	三宅 桜空 「あなたのところをごはんが救う」 『さよならごはんを今夜も君と』	キャッチコピーに平仮名を多用することで、分かりやすく、作風に合った優しい雰囲気を感じさせます。また、「あなたのところをごはんが救う」というキャッチコピーから、どんな話なのか興味をそそります。紹介文の「この世でいちばんあったかくて優しい食事」とはどんな食事なのか、興味をひかれました。
シルバー POP賞	城山 咲希 「危険！この本を読むと“あなた”は壊れます」 『勉強の哲学 来たるべきバカのために』	紹介文には「勉強は知識を積み重ねるだけでなく、これまでの自分を壊す営みだ」と説明がありますが、筆者の主張のポイントを踏まえたキャッチコピー「危険！この本を読むと“あなた”は壊れます」という刺激的な表現は、学ぶことの意味を捉え直すという点で、非常に目を引く興味深いものでした。
ブロンズ POP賞	佐藤 明日香 「星も人も、遠くて近い夏」 『この夏の星を見る』	「星も人も、遠くて近い夏」というキャッチコピーは、短くまとまっていて、よく考えられています。このキャッチコピーのもつ意味が、紹介文を読むことによって理解されるという関係性の工夫がなされている点もよいです。「夜空を見上げたくなる一冊です」という最後の表現が読書意欲を喚起し、効果的でした。

◎イラストPOP部門

賞	入賞者氏名 『書名』	講 評
ゴールド イラスト賞	白井 葵 『イワンの馬鹿』	奥行きのある画面で、色使いも大変きれいです。淡い彩色ですが、空の青さの中にタイトル文字がくっきりと浮かび、人物は外形線を強調して背景に埋もれないように描かれ、作者が見せたいもの、見てほしいものが的確に表現されています。
シルバー イラスト賞	白井 真佐代 『心に緑の種をまく 絵本のたのしみ』	絵本の解説書を紹介したイラストポップですが、その実際のカバー絵とは違うデザインで、『エルマーのぼうけん』という絵本から抜けたキャラクターが画面の中心に置かれています。画面全体の物や文字の配置、配色ががとともきれいで魅力的な作品でした。
ブロンズ イラスト賞	西部 祐希 『博士の愛した数式』	画面をノートに見立て、そこに本の中に出てくるワードを散りばめるという構成で、黄色い付箋に書かれた「僕の記憶は・・・」の文字が最初に目に入ってきます。有名な作品のイメージを、たいへん分かりやすく表現できている点が素晴らしいです。